

氏名	藤田 淳史
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 4204 号
学位授与の日付	平成22年 9月30日
学位授与の要件	医歯学総合研究科病態制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	A retrospective analysis of 133 patients with cutaneous lymphomas from a single Japanese medical center between 1995 and 2008 (日本の一医療施設における1995年から2008年までの皮膚リンパ腫患者133人の後ろ向き研究)
論文審査委員	教授 吉野 正 教授 谷本 光音 准教授 塚原 宏一

学位論文内容の要旨

岡山大学皮膚科を1995年から2008年に受診し新たに皮膚リンパ腫(以下CL)と診断された患者を、改訂WHO分類に準拠して分類し直し、その疫学的特徴をまとめた。133人のCLのうち106人は原発性皮膚リンパ腫(PCL)であった。その87%を成熟NK/T細胞腫瘍が占めており、欧米の報告(77%、72%)より多かった。欧米と同様、PCL106例のうち菌状息肉症が約半数を占めていたが、欧米ではほとんど報告のないATLLが6%認められた。一方で成熟B細胞腫瘍は比較的少なく、特に海外で10%程度報告される原発性皮膚濾胞中心性リンパ腫(pcFCL)はこの期間には一例も認められなかった。予後に関しては全体に欧州より不良(5生率79%対87%)で、特に原発性皮膚未分化大細胞リンパ腫(pcALCL)で5生率48%と欧米より著明に低かった。ATLLくすぶり型との予後は自験例でも過去の報告例とほぼ同じであった。

論文審査結果の要旨

単施設後方視研究である。1995年から2008年に診断された皮膚リンパ腫133例を2008年WHO分類に準拠して分類し、疫学的特徴を検索した。133例中106例は皮膚原発リンパ腫(PCL)であった。87%は成熟NK/T細胞性腫瘍であり、欧米より高率な傾向がみられた。その中で菌状息肉症が約半数を占めており、ATLLも6%認められた。成熟B細胞腫瘍は比較的少数であった。予後は全般に欧米よりやや不良(5生率79%対87%)で、特に原発性皮膚未分化大細胞型リンパ腫は5生率48%で低かった。ATLLは過去の報告例とほぼ同様であった。

実験の目的、手法、結果とその解釈とも適切になされており、皮膚リンパ腫に関する重要な知見を得たものと評価される。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。